

# 国民総幸福 (GNH) を支える倫理観・宗教観研究

熊谷誠慈 (こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門特定准教授)

## ■研究の背景・目的

GNH (国民総幸福) という概念は、1976年、ジクミシグ・ワンチュク第4代ブータン国王により提唱され、国策の軸に据えられた。以後、GNHはブータンの代名詞となり、各国の幸福政策のモデルの1つとなっている。世界的な注目が高まるなか、2012年には国連において「世界幸福デー (International Day of Happiness, 3月20日)」が制定された。

ブータン研究の開始は第2次世界大戦終結後のことであるが、それは歴史や人類学的研究を中心としていた。一方、1990年代に「王立ブータン研究所」(Centre for Bhutan Studies) が設立され、これまでに計5回の国際GNH学会が開催されるなど、GNH研究が一気に加速した。わが国でも、2011年に日本GNH学会が創設されるなど、GNH研究は大きく注目を集めるようになった。こうした国内外のGNH研究は、経済学者や心理学者、開発学者などを中心に進められている。

ただ、ここで忘れてはならないのはブータンが仏教国だということである。国民総幸福を含む同国の先進的政策が、あくまでその基盤を同国に深く根づいた独自の宗教的倫理観の上に置いている事実は看過されがちである。この点を無視して、ブータンの本当の理解には到達しえない。そこで本研究では、国民総幸福という広く知られた概念の根底に存在する倫理観および宗教観の仕組みについて、広くチベット・ヒマラヤ文化圏全体を視野に収めつつ、多角的に検証する。

## ■研究の方法・研究内容

本プロジェクトは以下の3つの柱に沿って進められた。

(1) 文献研究 (文献学に基づいてブータン仏教の思想・幸福観を解明する)

(2) フィールド研究 (現地調査によりブータン仏教の現状を解明する)

(3) 学際的研究 (後述の研究会等を通じて異分野のブータン研究者間で情報交換・共同研究を行う)

## ■研究会・講演・シンポジウム

### 1. ブータン文化講座

・第3回「ブータンを見つめた

京都大学との56年」栗田靖之 (国立民族学博物館名誉教授) 2013年4月16日  
 ・第4回「ブータンの魅力とGNHの現在: 世界はGNH社会を求めるとか」草郷孝好 (関西大学社会学部教授) 2014年2月24日

### 2. 京都大学ブータン研究会

・第5回「ブータンの農村におけるフードセキュリティ」上田晶子 (大阪大学グローバルコーポレーションセンター准教授) 2013年4月25日  
 ・第6回「ブータンのGNH政策と幸福の多層性——個人レベル・集合レベルからみる幸福への視点」福島慎太郎 (京都大学こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門非常勤研究員) 2013年7月4日

・第7回ワークショップ「ブータンのGNH (国民総幸福) 政策の詳細と現状」高橋孝郎 (国際金融公社) 2013年9月11日  
 ・第8回「浄土のために踊ること: 第2次ドゥアル戦争とドチュラ祭」永澤哲 (京都文教大学准教授) 2013年12月5日

・第9回「ブータンとチベット」高橋孝郎 (国際金融公社) 2013年9月11日

・第10回「チベットとブータン」高橋孝郎 (国際金融公社) 2013年9月11日

### 3. 国際研究会

集会名: Bhutanese Buddhism and Its Culture (ブータン仏教とその文化)

日時: 2013年7月23日 (火)

場所: モンゴル国立大学 (モンゴル・ウランバートル市内)  
 発表者: 本集会では、アメリカ合衆国、



お祭り最終日には大仏画が開帳され、集まった人々の前で僧侶たちにより法要や舞踊が行われる

タイ王国、ブータン王国、日本より計8名の研究者が口頭発表を行った。センター所属の3名の発表タイトルは以下のとおりである。

1. 熊谷誠慈 (京都大学こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門特定准教授)「ブータンにおける宗教マイノリティの研究」(A Study on a Religious Minority in Bhutan)

2. 松下賀和 (京都大学こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門非常勤研究員)「ドゥク派開祖ツァンパギャレーのマハムドラ理論の紹介」(Introduction on the Theory of Mahamudra by the Founder of Drukpa Kagyu: Tsangpa Gyare Yeshe Dorje (1161-1211))

3. 安田章紀 (京都大学こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門非常勤研究員)「ペマリンパによって発見された『小編タントラ』の研究」(A Study of rGyu bu chung discovered by Pema Lingpa)

## ■今後の展望

今後は、ヒマラヤ宗教研究プロジェクト、ブータン仏教研究プロジェクト、精神と科学との対話に基づくこころ観の再構築プロジェクトと連携し、より多角的な視座からGNHの概念を捉えなおす予定である。

●2014年4月1日 西田知史、望月圭、梅村高太郎が研究員に着任、森崎礼子特定助教、千石真理研究員、長谷川千紘研究員が離職。

●4月11日・12日「国際会議 Mapping the Mind (こころの再定義): 科学者・宗教者とドライ・ラマ法王との対話」(於: 京都ホテルオークラ4階・暁雲の間)。共催: 米国 Mind & Life Institute。

【4月11日】開会式; 開会挨拶1: アーサー・ザイエンス (Mind & Life Institute 代表)、開会挨拶2: 吉川左紀子。セッション1: ドライ・ラマ法王14世による基調講演、今枝由郎 (元フランス国立科学研究センター 研究ディレクター)「初期仏教におけるこころ」、トゥブテン・ジンパ (マギル大学兼任教授)「仏教心理学と瞑想実践に関する考察」、リチャード・デヴィッドソン (ウイスコンシン大学教授)「こころを変えて脳を変える: 瞑想の脳科学的研究」、モデレーター: アーサー・ザイエンス。

セッション2: ジェイ・ガーフィールド (イェールNUS教授)「認識の錯覚: 仏教瑜伽行学派の観点から」、アーサー・ザイエンス (アマーフト大学名誉教授/Mind & Life Institute 代表)「量子物理学におけるこころの役割」、森重文 (京都大学数理解析研究所教授)「芸術との比較における数学: 求めるものは応用か、真理か、それとも美か?」、モデレーター: 入来篤史 (理化学研究所シニア・チームリーダー/京都大学こころの未来研究センター特任教授)。

【4月12日】セッション3: 北山忍 (ミシガン大学教授/京都大学こころの未来研究センター特任教授)「文化神経脳科学: 文化・脳・遺伝子をつなぐ」、ジョアン・ハリファックス (ウパーヤ禅センター長・創立者/老師)「プロセスベースによる慈悲の位置づけと、慈悲の修練におけるその影響」、下條信輔 (カリフォルニア工科大学教授/京都大学こころの未来研究センター特任教授)「潜在的なこころ、共感、そしてリ

アリティの共有」、モデレーター: 入来篤史。

セッション4: バリー・カーズン (ヒューマンバリュー総合研究所所長)「情動の可塑性: 健全な社会の構築に向けて」、松見淳子 (関西学院大学文学研究科長・教授)「子どものこころを探り、ポジティブな学校環境を創

る: 心理学におけるエビデンスベースの実践」、長尾真 (京都大学元総長)「コンピュータはどこまで人間に近づけるか」、モデレーター: ジョアン・ハリファックス。閉会式: 閉会挨拶1: アーサー・ザイエンス、閉会挨拶2: 山極寿一 (京都大学理学研究科教授)。総司会: 熊谷誠慈、マルク=アンリ・デロッシュ (京都大学白眉センター特定助教)。

●4月24日 第20回身心変容技法研究会+こころ観研究会 (於: 稲盛財団記念館3階大会議室)。1: 藤守創 (パリ大学科学哲学研究所/科学哲学・統合医療研究)「身心変容技法としての現代日本手技療法——補完代替医療『ヴァートセラピー』における客観的指標の確立」、2: 「研究計画の確認と意見交換」、司会: 鎌田東二。

●5月15日 第21回身心変容技法研究会+こころ観研究会 (於: 稲盛財団記念館3階大会議室)。発表1: 棚次正和 (京都府立医科大学教授/宗教哲学)「心身問題と魂の永生」、発表2: 森田真生 (独立研究者/数学)「岡潔の数学と情緒」、総合討論、司会: 鎌田東二。

●5月27日 「人が育つ組織」研究会第1回 (於: 稲盛財団記念館3階大会議室)。第1部・ゲスト講演: 小田理一郎 (有限会社チェンジ・エージェント代表取締役)「学習する組織——複雑で激しい変化の時代に、人と人が響き合いながら、しなやかに、進化し続ける組



国際会議 Mapping the Mind (こころの再定義): 科学者・宗教者とドライ・ラマ法王との対話

織」、第2部・トークセッション: 小田理一郎、太刀川英輔 (NOSIGNER 株式会社 CEO/デザイナー)、内田由紀子。共催: NPO 法人ミラック、株式会社ウエダ本社。

●5月28日 京都大学東京オフィス連続講演会「東京で学ぶ 京大の知」シリーズ15 第1回「日本文化における主体性とは何か——日本人の意識、感情、関係性からの考察」(於: 京都大学東京オフィス)。講師: 内田由紀子、ディスカッサント: 吉川左紀子。

●5月29日 第22回身心変容技法研究会+こころ観研究会 (於: 稲盛財団記念館3階小会議室2)。発表1: 津城寛文 (筑波大学教授/宗教学)「心霊研究圏内のジェイムズその他」、発表2: 齋木潤 (京都大学教授/認知科学)「瞑想と脳波の時間相関構造——経過報告」、総合討論、司会: 鎌田東二。

●6月3日 第35回こころの未来セミナー「介護する家族と死別する遺族のこころを探る」(於: 稲盛財団記念館3階大会議室)。講師: Jason Danely, Ph.D, Assistant Professor, Rhode Island College (Anthropology): Visiting Researcher, Kokoro Research Center, John R. Jordan, Ph.D: Clinical Psychologist, Pawtucket, RI and Wellesley, MA, USA、司会: カール・ベッカー。

●6月3日 第23回身心変容技法研究会+こころ観研究会 (於: 稲盛財団記

念館2階225会議室)。発表1：檜垣樹理（早稲田大学国際教養学部准教授、ソルボンヌ大学PhD）「シャルル・ペギーとベルクソン」、発表2：ロイス・ドゥ・サン・シャマ(Loys de Saint Chamas、カトリック司祭、早稲田大学非常勤講師)「十字架のヨハネの修行論」、発表3：桑野萌（ラモン・リュリ〈ライムンドゥス・ルルス〉大学哲学研究科研究員・カトリック京都司教区福音宣教企画室、バルセロナ大学PhD）「湯浅泰雄の修行論と身体技法論」、総合討論、司会：鎌田東二。

●6月4日 京都大学東京オフィス連続講演会「東京で学ぶ 京大の知」シリーズ15 第2回「自分の意思で決めるとはどういうことか？——心理学と脳科学の視点から」（於：京都大学東京オフィス）。講師：阿部修士、ディスカッサント：河合俊雄。

●6月11日 京都大学東京オフィス連続講演会「東京で学ぶ 京大の知」シリーズ15 第3回「求めるべき幸福とは——ブータンの国民総幸福政策とその根底に横たわる精神性」（於：京都大学東京オフィス）。講師：熊谷誠慈、ディスカッサント：吉川左紀子。

●6月20日 学術広報誌『こころの未来』第12号を刊行。

●6月25日 京都大学東京オフィス連続講演会「東京で学ぶ 京大の知」シリーズ15 第4回「主体性は超えられるのか？——心理療法における揺らぎと超越」（於：京都大学東京オフィス）。講師：河合俊雄、ディスカッサント：内田由紀子。

●6月26日 第24回身心変容技法研究会+ワザ学研究会（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。発表1：西平直（京都大学教授/教育人間学）「稽古と無心」、発表2：魚住孝至（放送大学教授/武道研究）「宮本武蔵と修行——身心変容技法への一視点」、総合討論、司会：鎌田東二。

●7月10日 「人が育つ組織」研究会第2回（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。第1部・ゲスト講演：大屋智浩（富士通総研経済研究所/実践知研究

センター上級研究員）、第2部・トークセッション：太刀川英輔（NOSIGNER株式会社CEO/デザイナー）、内田由紀子。共催：NPO法人ミラック、株式会社ウエダ本社。

●7月22日 第5回東日本大震災関連シンポジウム「こころの再生に向けて——震災後の自然と社会」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。第1部「趣旨説明」鎌田東二、基調講演1：田中克（京都大学名誉教授/森里海連環学）「震災後の自然環境の変化」、基調講演2：草島進一（山形県議会議員・羽黒山伏・元神戸元気村副代表）「震災後の社会と持続可能な未来」、コメント：金子昭（天理大学教授/倫理学）、第2部・報告：島菌進（東京大学名誉教授・上智大学グリーンケア研究所所長）「原発事故が問いかけるもの」、総合討論「震災後の自然と社会」田中克、草島進一、島菌進、大西宏志（京都造形芸術大学教授/情報デザイン）、司会：鎌田東二。主催：京都大学こころの未来研究センター震災関連プロジェクト「こころの再生に向けて」、共催：科研「身心変容の比較宗教学」（身心変容技法研究会）+聖地文化研究会（「生態智の拠点としての聖地文化」）。

●7月24日 第25回身心変容技法研究会+ワザ学研究会（於：稲盛財団記念館3階小会議室）。発表1：加藤雅裕（関東学院大学講師/音響学）「倍音声明の測定の実験と考察」、発表2：永澤哲（京都文教大学准教授/宗教学）「倍音声明と身心変容技法」、総合討論、司会：鎌田東二。

●7月29日 第26回身心変容技法研究会+こころ観研究会（於：稲盛財団記念館2階225号会議室）。発表：トマス・ヘイスティング（日本国際基督教大学財団主任研究員/教育学・賀川豊彦研究）「賀川豊彦の教育論におけるスピリチュアリティ、宇宙観と倫理観の相補性」、総合討論、司会：鎌田東二。

●8月1日 福岡県立明善高校2年生19名がセンターを訪問。鎌田東二教授、阿部修士准教授によるレクチャーを受講し、連携MRI研究施設を見学。

●8月6日 京都府/京都大学こころの未来研究センター共同企画「第13回こころの広場」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）、はじめに：河合俊雄、講演1：熊谷誠慈「悩みと不安のむかし：古き仏教は悩みや苦しみとどう向き合ってきたか」、講演2：畑中千紘「悩みと不安のイマ：現代の悩みのかたちを考える」、ディスカッション+質疑応答、総合司会：河合俊雄。主催：京都府/京都大学こころの未来研究センター。

●9月7日 「支える人の学びの場 先生のためのこころ塾2014 Aコース第1回」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。講義と質疑1：乾敏郎（京都大学大学院情報学研究所）「身体性の脳内機構：身体でわかることの大切さ」、講義と質疑2：明和政子（京都大学大学院教育学研究科）「心の発達の定型・非定型を考える」、実践報告：田村綾菜（愛知県コロニー発達障害研究所）、小川詩乃（京都大学大学院医学研究科）、情報交換会、司会進行：吉川左紀子。

●9月21日 「支える人の学びの場 先生のためのこころ塾2014 Aコース第2回」（於：稲盛財団記念館3階大会議室）。講義と質疑1：乾敏郎（京都大学大学院情報学研究所）「コミュニケーション機能の神経機構と発達障害」、講義と質疑2：友田明美（福井大学子どものこころの発達研究センター）「児童虐待とこころの傷：望まれる養育環境とは」、実践報告：土井奈緒美（京都大学大学院教育学研究科）、畑中千紘、情報交換会、司会進行：吉川左紀子。

●9月27日 京都大学春秋講義「平成26年度秋季講義 テーマ：生命と老化を考える」（於：京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール）、講師：カール・ベッカー「安心して終焉を迎える日本的な看取り：その準備、受容、意味」。

●9月29日・30日 「fMRI体験セミナー2014」（於：こころの未来研究センター連携MRI研究施設南部総合研究1号館地階MRI実験室）。レクチャー・実験指導、講師：阿部修士、上田祥行、中井隆介。